詩書堂寄題集

~1
456

和漢門 486 1

寄題森清卿詩書壹　水戸　石川清秋字公勤称儀兵衛

仙丹自一方妙用快人腸詩律唐三體書法晉二王門
前金孔雀街上玉花驄咫尺紅塵滿高壹更寛涼

寄題東都下谷詩書壹　同府　小宮山昌秀号次郎衛門字子実号楓軒

漢傳唐疏誰所嵶身講詩書隱方技無偏無憲君家学
何向今人問是非

題森玉川君詩書壹縱字偈二首　田安　同田一泰字子通称多膳

白毛篆成人眼開文字般若最奇哉翰墨林遊但勝賞
聖書数行漫殊才

明治廿五年十一月廿七日
森鴻次郎

又畫用壽量品之字

多納良藥色美香求索救療能治狂勿憂莫惱無不差
豈唯是身病一方

題詩書堂　小石川桐原義和（称矢吉　字無字）

森君業潔冠醫術救命靈丹真一方禽戲應裨造化力
杏林須事八行良經書講博鳳鳶口詩賦調高錦繡腸
為試群才排字館名聲自是武城昌

寄題詩書堂　水府同野行從（字子言　称庄五郎）

儼塾先生數世孫弱冠才子號庸軒步樓曾看烟霞疾
沈陸今忘市井喧負笈壯心遊上国尋師為志同中原
從来翰墨非吾事強引尤毫題一言

寄題無一大居士詩書堂　長崎僧　方外樂人（名大夢）

詩書堂主誰水戸御醫師明諦清卿字何人生此兒又
號玉川子世俗曷以呼曰丹田樣申来天爵軀志操
千載鏡学術一時規堂在東都之下谷南陽隱士臥龍
居小錐不盈方丈赫赫大名四海馳

寄題丹田先生詩書堂　市谷田町知性（字季禮　称）

東叡山前上野街紅塵堆裏一幽棲先生解盡人間事
更向人間共樂迷

寄題詩書堂二首　羽州山村讓（称　字子才）

寳字不馳空数方治萬病営〻身閑忙淡〻心閑静
詩書真益友風月實知音好字無泥學奥未弄古琴

毒君の詩書堂をわきて　京都小倉山　軟智通　号隨佛

こゝろこゝろをかゝるみやびひとゝなるこゝろ
ゆかしとてあるゝゝあるゝゝこの堂内のもち

寄題詩書堂　猿子名〻字白圭　東都人

聞説高堂上詩書及理通醫方如扁鵲文自似揚雄人為
稀天下君子多国中何厚千載後唯是英才士

詩書堂と名

東の大君此道を慕ひ人のあつまる頼の風
てらすといみしきあるゝ　大和国　こゝ
とりに今の医ゝとかゝ　ぶるまよりて
こゝろ[illegible]ゝにあつまる花の夜
のゆめよりしるをかひつけておくり如

鎌倉人　増志　俗称大関幸介

詩書堂乃名　井川

きゝひとゝ波れれくきのかゝ
詩書堂と名付て詩を集ふ
こゝろを引て

同所　高行　俗称小室三郎　右工門

[illegible]

相州人 道孝 俗称武熊圍右工門

多紀元堅文 別録 字柔卿 俗称安叔 号葵庭 東都医官桂山先生第二子

松浦祖文 同 字遠明 俗名辰次郎 号梅軒 水戸之士住于駒菴邸

半井成美文 同 字君人 号慶雲 又号慶雪館 俗称大和守 御醫師典茉頭京人今住于幕府

西村鏡文 同 字照卿 号香庵 俗称元者 号李花如雪斎 水府之士住于砺川邸

寄題吾児詩書堂

遠近有慶喜雙親況又卜居得高郭好詩書行餘力

一堂常會四方人

森德隣 字子載 称勇庵 水府醫官住于鎌倉

寄題詩書堂三首

風流天下士閑雅市中仙寓意詩書裏壽宋幾萬年

誰訪醫業労心身為疾家奴賤且閑方術由來天下珍

藤義權 字仲默 俗称[illegible]

詩書良茉念時病只活可生何有難二経安是学醫端先生法眼非横用

正直世間正直安

[illegible]の詩書を[illegible]をよめる

うた三首　東都人　りゑ　鶴岡八幡別当 円明院

足引の山をみれハあやぬこのもとの
ことゝもにあそふ庵そこれ
いにしへのふミを何にふせやの
これのあるしゝたのしくみゆら
文の葉をしけき林にこもられて
まなひてふ君かんたのしと

題森庸軒先生詩書堂

東都人　齋藤章成上　大坂や花八

森々詩書堂　庸楽錦繍章　軒宇近東台

先後夾巴梁　生平遊翰林　風儀出水郷

雅莚吐拙誰　亭々市隠狂

詩書堂といふ題を　同人

いさ清き志の跡ふみわけてたつねもとむらむ

のふての名ある森の下風

詩書堂に寄て国風　読なる子　庸軒母 住相州

言の葉やみる人ことにみぬもろこし

その友をとふもまたこのもとに

名ふるよみおくる人の

とひくる人のをしへのもとにて

醫學館
醫學館

東叔乃山の藤原　森脇秋人　世に有る
ものあるらしも面乃と乃可集をとき
よめる
　　為京真鰭仲ナ名護や牛松
たちなのきよるなこの程ゆかしく思ふ
　　題詩書堂　　金寛
詩成李白百篇戈書学王羲筆格用堂満六経晒
日腹家請三畧幾人来八元八伯依侍客十哲七賢
相倉堂涼夜秋風偏動樹鳴声自是為君催
　　後藤真春

ゝゝゝゝ　なのまるる　柳の風流古
　　友やしきる君彩ゝゝゝゝ
　　奉祝詩書堂長詞　　加称比呂
八須美志志　　和賀袁布喜美乃　　志呂志米須
古乃久弭波志毋　　宇羅夜須乃之　　宇羅夜須久弭登
夜須良祁久　　美御世豫由登布冨止伎　　比佐カ多乃
阿天麻佐カ留比奈　　登利賀奈久　　阿大東麻乃久御国弭波
比乃比カ留　　阿東豆麻袁天良須　　加宮麻志緑豆
志豆来麻都祭礼留　　登茄波弭毋　　麻都智乃夜摩乃
麻松都乃奈乃　　伊弥夜弭佐カ由留　　都賀乃伎乃

伊夜都岐都岐弭　美許海止許登　加志古美麻都理
母能乃侯諸布乃　夜葉止母乃袁乃　許登碁止弭
多須祁麻都利弖　袁年御多加羅　宇都阪誠志久志美祁留
美拵理已乃　和久碁乃碁止弭　袁布布稱乃
袁毋閇多乃美弖　阿佐奈岐波　加波川豹溪阿由都理鰡
曲布奈岐波　宇奈浮弭志鼻都理　加久毋如此曽
多乃志伎久尓由　袁布岐多者　曽乃東伎能閇奈留
志乃々末乃　志乃武乃於加弭　加美那比乃
毋理奈與婆閇都　久須乃伎乃之　久須々乃比登乃
久呂岐毋天　都久礼留伊閇袁　麻曽加々美

袁布岐天美礼婆　宇多布美多　奴加弭恵利都祁
登良賀保由　加良布美與都　袁布布袁毋都
夜摩止乃美智乃之　布美都杼閇　宇登布麻尓麻尓
波留鼻尓波　夜麻乃曽賀閇弭　佐久波奈袁
袁理加弭都　阿喜鼻尓波　茂美自婆加邪志
佐喜久佐乃　美都波志和多須　加波能閇弭
曽乃比止多々志　牟禮杼理乃　牟礼喜天奈久袁
阿加豆志毋　美都々久羅佐婆　多乃志久阿良牟
反歌
加美奈比乃毋理止波　奴加牟母理乃奈乃袁婆　奈喜喜都々伊

由喜美年加毛 第一曲 佐喜久佐乃美都波志和多須曽賀波
志袁布美手多理美年布美與年比登袁 第二曲 抒
加良久弭乃加羅布美與美旦阿佐与閇弭布美比登都閇多乃
志久阿良年 第三曲

戯題庸軒先生詩書堂　高橋正預

司馬倦遊往茌都　風流今日売詩書
用心家政財愈満　不用使文君当壚

寄題玉川先生詩書堂　二宮好文

業医生計足会友　弄詩書君是真風雅
不来利与誉

詩書堂別號庸軒即中庸之義也玉川先醒以為俗称而自訂允庸之庸也僕感之謹呈中庸歌

兼用

玉川のみなかみに山にとりあそひし
つねにかよふいへはやとほし　金寛

奉謹寿詩書之玉堂国風詩　笠松長春

八まとのうたも八まとのことはにそふかくすみ玉
詠の石ぶくしも東のやまとことのはさらさらや
よろこしのこともよろしかるまことの道をもちゐられ
もろもろのみちもちかくあゆみそめしあ
うたのみちひろくあまねくぬれぬるもただ八はぞつくし
しぬるまでえをのみふかくやとことはもあきつきなき

寄題詩書堂

石田成美 字号已 号中山

方術明未如草醫優游閑雅日驅馳活人不只勝扁鵲二妙

英名高一時

庸軒先生祭醫祖神一記

醫業盛れ近き人の為に後となりてこそ
しるべ多いめらといちひこそこそふさいちの後
きちぐんなむありきる世に申にあらゆ
る命ありくいるまで外にやまひなきまと
あらはぶるものなれば世にいきはまも
いづれの医業盛れとそばぶる代遠
ありめられるこの外時よりいでそこる
えうを世に伝るを同ぶりに神たるむ

ぢの命業盛の中に形男出ぶ有れば心よ
ひなりて代二ぼ
あるもの同とうて甚墓とくみ教ぶて
あるもきみ鳥はものでのちの分に
ぶはひと得ぶやうるむみ見ゆと
ぐし勢ひるかくてどとうひ根とうの
ぶれ家とうるぶ花とはみて世のうまひと立
次人国のあのぶさ智るのめのとあひて
らめぶるうの二形の神の医業よあぶと
ふさうるの医業のうぶ書れ世よ

いろいろハくさぐさよこたへれて一とやうちうば
いろのかたちたきつくハ当あるくゆ
をもうろうのもかくぞみすぐき今は世
此中人の山なくあやまりたるとも
とてめぐびせるうちにあ後ハ
ちかひ　きふるひちぐるの効ゆるぐ
ぶ　きすぐ　ものうりでくさハけ神く
ちはこうあれふの言ちうろう
ちあこうなるうちうちげうりうを
えうふあれど宮ゆとあるひとは甲子待と

待ハ二ツリノ紐設ナリ　ととたのくあるぐ効の
きいはひとふひとは巳待巳待といふぐと
てあのいぐはひとはらつまなぐ神
うちれば幸うぐみうるかのをう其基を固め
其根を正てまつうぐきうぐなり利うかゆる
うハ効まちとふ効の福と祈ハ福と
ハて病なく寿長ならむとぐあうまは
きうぐあうり　ルみちちて大なもぐ
のあうん神と甲子の日に参ぐ祈まちの
神といつきまうとうは神いま

ど若くすましりる時ハ八十紙のつくあるよ
せうめらるるなり
ものの枝ハ笹とそけるひよりつ同じい
すしりる時さる白ぐよたつあらるたま
くふとそうの日みら蔵の丸きりて火ハ
せめとそけしめなりて伐くまつ配
なる事にまりてあるえ子の日ハ
なほ〳〵神とそうひまつるそりる
ほ〳〵同の基とそうあ移ハ大同三年
といそうれすしくさりて富たるて

すしりる決てのぐて神のおうたびきつぐき
にあるぐ生雲の峰ハ大社とあるぐきた
まばかりくのさんはひとそひ移ぐひまつ
ハそ移すちは神とそのみまつるぐべ
なりりる又故ハ毘沙寺の神と巳巳の
日に供りてみそちの神とりさまと決事
ハくとそうのかの猫とはらひ
病ハ毒長猫と移ぐ蛇の心
なるもとにいふくよ巳巳の日ハ被そる
ぐありてかのかたのそうとくとつて

[illegible]形ちらして[illegible]ちらあり[illegible]天
皇[illegible]代[illegible]ゆ[illegible]の上つ巳の日
の祓あるべしし甚しきとの神功皇后
[illegible]時の[illegible]事[illegible]おこれ
り[illegible]を皇[illegible]
り[illegible]皇后[illegible]
ひつぎ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ほき[illegible]
きるほし[illegible]
[illegible]
やよひの上つ巳の日
[illegible]田子[illegible]名の[illegible]と[illegible]
り[illegible]ひつて[illegible]
[illegible]
[illegible]世[illegible]岩の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

つちのえのこの日にちあんいたちひ[illegible]
る[illegible]の神[illegible]
ふ[illegible]ぬ[illegible]ば[illegible]の下にあ[illegible]
のはたちの神のはいりてをかうふ[illegible]
ハなりまして世の人医の道の人を
よあふぎまつるべきをたゞ世の人
のいのちをこそつきさいはひとさづけ
給ふ二柱のおほん神にてましま
せど祈り甚しるしふをあつぎ
たてまつるべきいつきかしつさ

醫學舍

の森の

まつらざらめ
○年ごとに正月八日に二柱乃
神のはしをまつるなむいつきまつる
阿弖良志吉竹等乃波士米迦
夜加乃比恋
古登保枳麻都留
叶ふ文化のむつのとしの[illegible]月
[illegible]の[illegible]の[illegible]の下に
のことく[illegible]書堂のあ[illegible]森あき
[illegible]の[illegible]成か

醫學舍

つちのえのこの日にちあんいたひぞうとも
るくさの神とちてこそつきよ神
ふまりそばの下にあゆる雷
のはたちの神のはいりてかうふぬ
ハなりまして世のくすしの道のハを
みあふぎまつるかぎりさをかき世のハ
のいのちとこそつきさいはひとさぐけ
ぬ二柱のおほん神にたてまつ
せぬ祈り甚ふかきをあつぎ
たてまつらめいつきかしつさ

まつらざらめ
年ごとに正月八日に二柱乃
神のはたをたてまつりて
阿尹良志苦竹乃波士来迦
夜加乃比恋
古登保枳麻都留
叶ふ文化のむつのとしのかむ月
ちちのひむつの日の大こと
のことく竹生壹のあるじ森あき
らかの君のまつ
芙原の幸成か

しみさるる

森庸軒大人娘子過五十日頃死聽後日意悼作

藤原真鰭

梅花佐可受果如登今霄谷聽者歎久吾波念鴨

ぬきんである侍女の人のよしなるよよ弱くぐ
しび居のゆきてかれそこらを稈ちのあ
ぐなどいつるとたちしをとつる人のんよいそかとの
らぎたちらし夫ーをきをハこれーもうすー
きとこをちらばとらいつるえまてこれを人の愛
あとらしをつるとやたつるみれどもてつとあ

ざもくてをのこてこぶ鬼の面つけてちごとかどをが
めしらこをこがなちる赤の色のぬーの紙をみよ
うとしをとをらしをとらしをちひみるる
と半ちをよりてらしさをーさをさをる
いんぶをるんやちる中みる赤毎のちりをよ涙
の紙とをぶりもあくぶをくをむかりをひりまみ
をてををををのをるのひ赤をし　をハよ
姫をまををる涙やいをふ赤毎姫
からをるをなんををと赤加のをちをの

春雨のつれなき
ちる花ふやう
ものかくらあ
さつやらはきく
ぞうそうぞく
ぬ　半杯

一ちみちるまて

森庸軒丈人娘子過五十日頃死聽後日意悼作

藤原真鰭

梅花佐可受果如登今霄谷聽者悲久吾波念鴨

過きしある佳人のよらしなるよよ弱ぐ
ら花のゆきてかくれたぐらを稚兒のあ
ぢなどいつるとたちしとそつる人のんよいとかとの
らぎたちらしをなーきをハこれーもうすー
きとこをきらんとらいいうえ　ゆーてこれをる人の愛
るとらしなるとやたるるみれどひてんとあ

ざもくてをつてこぶ鬼の面つけてちごとかどをが
めしらてこぶなちる赤の色のぬーの紙ものよ
うとしをとらしらどうるとらしちひるる
とゆうるよいそりらくりさうさまさるる
いらぶるるんやちる中みる色毎のちるよ涙
の紙とえぶりもあくぶくちむかりひやりまね
くてはきくぎのるるのひ赤らし　もいよ
姫るまるる涙やいろふまる毎紙
からるなんらとも赤加のちちの

恭奉壽

市中僧人森君之詩書堂長歌一首并短歌二首

[illegible]

八隅知之　吾大王　高光

[illegible]

所聞食　天下　国橋

[illegible]

澤尓治有　雜之啼　東國

[illegible]

風音　遠朝廷　大伴

[illegible]

国之御民　高注兒　慕来生而

[illegible]

春立　花折　挿頭　秋附

[illegible]

黄葉　手折　空蟬之　人集開禮

[illegible]

古行左行　空敷布

[illegible]

大城邉　三枝乃　三橋渡須　上瀬尓　我

[illegible]

三視婆　下津瀬仁　詩書堂　鶉鳴

降西事乎　黒木用　造流家　玉夢

有掛　額　打木綿　隠天居　真曹鏡

視人盡　愛　将念

[illegible]

詩　和哥　三五月　漏

家　楽

[illegible]

詩書堂

詩書堂ゝ以ま大人のかをふ迄ゝ

白井象胤　[illegible]

水府世臣

[illegible]

應　森誠卿需寄題其詩書堂

川口長孺　字嬰卿號緑野　称介九郎

一簾風月半林書、満市紅塵到此虚、儘為心閑愛雲静、

好因山近見花初診方兼詳文經略品物更判畫鳥魚
却是詩書今東閣慚君事業切民閭

題森清卿詩書堂　立原萬字伯時號翠軒称甚五郎

好事由來心不移滿堂古帖與新詩暮春々服携童子
風詠時臨山下池此君堂詩集卷二

森中江畫像歌　谷忠明字子陽号鬼谷称佐之衛門水府侍臣

水藩森子醫中英名尚源兮字清卿總角方遊文雅苑幾人
咸稱神童名弱冠嗜武善刀技慷慨常存報國情容貌端麗
性闊達精神磊落氣縱横腰間斜佩雌雄劒天地睥睨俠
骨清第在城東中江上因號中江森先生世官世禄耽醫
業石室嘗探金液經自謂醫無古今別一家風俗最先鳴
救病起死如扁鵲知命樂天似淵明白玉山人牧子道清言高
笑妙丹青近来為寫先生像慇懃裱裝一軸成我亦忘年
莫逆友相看豈無瓦石聲君不見古來豪傑難勝算正節
更未有若兄隱德韜光多適意澹然何羨世塵榮

贈森尚源歌　　青山延于 字子世、号拙齋、稱量介、水府史臣

屈宋不復起、斯道榛塞矣、自元禄來一百年、東方文章何
萎薾、先朝文雅森尚謙、遺文彪炳至今傳、子孫奕世生文
種、舊時典刑尚綿連　今公好學又愛才、煦濡涵毓生異
材、森氏冢子鳳蜚聲、年未弱冠壓時英、下帷讀盡先人
書、席卷文陣力有餘、志氣激昂摩蒼旻、睥睨宇宙若無
人、讀書經目盡成誦、縉紳先生皆逡巡、道是天上麒麟兒
道是渥洼千里騏、劇談抵掌論今古、脫穎恰似囊中錐
詩篇貴飄逸、不肯拘格律、傾心摹擬杜少陵、極力步驟
李長吉、長短皆有法、風骨出天成、學書早上堂、時揉
尤研精、吾黨善書吉尚典、為之避舍不敢衡、楷法一時稱
齊整、飄然下筆若蒸餅、蒸餅墨豬滿水府、區々小技何足
数、丈夫自當期大成、莫將小技徒辛苦　出拙齋集卷二

小倉参議公 諱豊季、一諱元腆、號樂志堂主人、時為参議、従三位兼右近衛中將、称小倉家、世為天朝大臣

千住驛小集贈森一貫用其韻

憐爾奇才不可量、詩成落紙有輝光、今宵佳興忘遊
旅、宛是他鄉似故鄉

奉寄森玉川先生　　冨塚荼 字謙蔵、号東垣、善書、東都處士

志業未得立、先生亦博談、高韻無與敵、新首有從來、君住
青雲上、吾居野水隈、常憐意緒拙、應是濟時才

和森醫伯見寄韻二首　岡野行從

群裏成群難出羣離群〻裏德尚存耻吾墮落群〻裏四十五年徒素餐

君混世塵避世塵〻中不染獨抱仁濟生破産真仁術仁中為仁忘却仁

文化丙寅季冬送森君清卿歸水户

石川元篤　字大年、称泰椿、薩州醫官

不忍池邊不忍悲柳枝折盡促遊期還家試看武陵色白雪山〻映翠眉

送森君清卿歸藩　小川修輔　字南総人

三尺腰刀七尺身還家洗濯客中塵再遊為我慇懃說羨汝幽林抱朴人

水府森君清卿見訪敝舍云以本月廿日將促歸軫離別之情形其面矣余亦以明年將西歸得無索居睽離之歎哉仍賦一絶送別時丙寅臘月也

相逢本天縁、交歡絶數月、飜然作別手、此會竟胡越、

森君清卿、將歸省水府、席上賦一絶送之

雉井永 字終夫 柳川人

未盡新知樂、即今成別離、言笑復何日、相向意憂悲、

曾我長卿 字 柳川人

丙寅季冬二日、水府森君清卿見過訪、敢賦即事、以鳴謝、

小田為國 字 号龍南 薩州醫官

邸舍風煙類隱家、相迎頓似避塵譁、有君若遂遠遊志、重贈西來杏樹花、

丙寅の冬水戸より森ちをとの君をたちむけし

奉る

橘英蔭

別まゝ後あるこゝろ
今いとなれ
何ゝ
なゝ
中くふあいも
今
森氏の水戸より帰るをたちむけしく

檜山秀儀 儀右衛門

春をれハ隅田河原城
城

おもしろう浦社なるものみるとても
絵きくいやさくさく格子の手格なるの
和うる神八幡のかうかうあるの
南京古渡りの茶碗ふ火打石をそへく
森ちやうやさう帰ふするをたるもけ元

田島庸忠 伊兵衛

紫りてー情社行ふをたまれ元ある
うちうくむくひみおとひ以て形舞
森氏さくひ放つふ吸くくふ人くひ戸社吸ーを
もんるを思ふまくふ一茶をめくくし江戸中

名不社弥跨を求め帖とおし弥ふを学く

向島住

みぬ京さ社くるふ付ふくふるさとへ
ふへる学を元乃河まふーき絡

題定齋先生素位堂用其韻二首

尾藤積高 字希大 号水竹 仕幕府

甚嬉居僻似郊坰時有朋來不用迎綠樹枝垂窓紙暗
紅爐火活茶聲清半庭菜圃荷耒鋤滿壁詩篇任筆成
身上何求衣食美多閑無事是安榮

禄食多閑何用名撿來恰是一書生世人豈識中情淡
俗士爭堪貧味清好事風流非有着語言心跡甚分明
不妨呼作狂顛客贏得文章百代榮

題定齋先生素位堂用其韻

釋亮融 号豁堂 住東台春性院

貧富無論交任情、堂中素位好安生、忘憂不識年將老、
勤學何饜夜到明、高節栽松幽砌古、虛心愛竹小窓清、
誰知城裏還如此、遼莫世塵枯與榮、

賀庸軒森君轉職教官　酒井學字習之號晴峰、稱時中、江戸隱醫

儒之道進於方技、擇自醫官命學臣、賴仕　明君得其
志、黎民風化竟維新、存〻居遺稿

奉賀定齋先生增俸　山本寛字猛卿、号拷齋、称藤七郎、先考門人

大哉天命自彰〻、今日忽看明德光、不倦堂中愈不倦、
聖門一段益文章、